

石の花 (1946)

KAMMENNYI TSVETOK
A STONE FLOWER

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 ソ連
時間 80分
初公開日 1947/11/04
公開情報 日ソ映画＝東宝
リバイバル 1975/06 [日本海]

【解説】

ソ連初のカラー長篇として、戦後まもない日本でも大ヒットを記録した、ウラル民話の映画化。ソ連が終戦時接収したドイツのアグファ社の技術を使用、独自のいささか不安定な発色が、本作ばかりではなく、ある時期までのソ連映画を特徴づけている。お話自体はごく他愛ない。婚約者のいる石工の青年が、銅山の女王の妖術によって、自分を失ってしまう。女王のために、一心不乱に石の花を彫るのだが、もちろん、最後は教訓的な解決に留まる。監督のプトウシコは後に、よりファンタスティックな異色作「妖婆・死棺の呪い」をものにする。

【クレジット】

監督	アレクサンドル・プトウシコ	Aleksandr Ptushko
脚本	パーヴェル・バジョフ イワン・ケツレル	Pavel Bazhov
撮影	フョードル・プロヴォロフ	Fyodor Provorov
音楽	レフ・シュワルツ	Lev Shvarts
出演	ウラジミール・ドルージニコフ タマーラ・マカーロワ エカテリーナ・デレフシチコーワ ミハイル・ヤンシン	Vladimir Druzhnikov Tamara Makarova Yekaterina Derevshchikova Mikhail Yanshin